

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	寺岡 裕城	学校名	豊中市立豊島小学校
実施学年	6年	教科	国語
単元名	話し合って考えを深めよう		

《学びを深めたいポイント》

◆考えを揺さぶる番組のしかけを利用

『昔話法廷』には、起訴状朗読・罪状認否、検察側証人、弁護側証人、被告人質問、最終弁論、という5つのパートがあり、一斉視聴の際には動画を止めて、児童に問いかけながら思考を揺さぶることができます。特に、(1)最初に立場を決めた時、(2)立場が揺れ動いた時、(3)最終的な考え、をポジショニング機能で把握するようにしました。一度の視聴ではさまざまな情報を受け止めて理解することが難しい児童もいるので、個別視聴で見返すなどの機会を与え、個々の児童のペースで考えを深めていくことができるように配慮しました。

◆裁判員制度を疑似体験

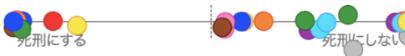
『昔話法廷』の視聴を通じて裁判員制度を疑似体験できます。裁判には争点があり、今回の場合は罪を認めている猿を死刑にするか、それとも死刑にしないかということの中立の立場で見つめる経験になります。友だちとの議論を通じて、「命の重さ」や「償いの意味」、「人が人を裁くことの責任の重さ」などについて考えを深めました。社会科で扱う裁判所の役割や裁判員制度を理解することにつながりました。

《SKYMENU 活用のポイント》

◆他者の意見も参照しながら考えをまとめる

『昔話法廷』の「『さるかに合戦』裁判」は争点が決まっているため、児童は自分の立場を考えて表明することができます。授業者(筆者)は、「どの証拠や証言で自分の考えが生まれたのか」「証拠や証言をどのように整理し分析したか(するのか)」などを、児童の個々の思考段階に合わせて問いかけます。児童は、学習支援ツール(SKYMENU Cloud)のポジショニング機能を活用し、自分の考えの変化に合わせてポジションを動かしながら、考えたことを入力します。マーカーをタップすれば、友だちの意見を参照することができます。児童は、友だちと意見を交わしたり、番組を見返したりしながら、自分の考えを練り上げ、まとめていきました。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	<p>1. 授業内容を確認し、『昔話法廷』の『『さるかに合戦』裁判』を視聴する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の授業内容や流れを理解する。 ・裁判員のひとりになったつもりで、中立の立場で番組を視聴する。 ・視聴しながら、端末に自分の考えを入力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気づきメモに考えを記入する。 	
展開	<p>2. 裁判の争点を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・罪を認めている猿を死刑にするか、それとも死刑にしないかが争点になっていることを確認する。 ・検察側、弁護側の主張や証拠を整理する。 <p>3. 自分の考えを練り上げる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・端末で他の児童が書いた意見を見ながら友だちと話し合ったり、個別視聴の時間を設けたりしながら、自分の考えを形成していく。個別視聴の際には、根拠となったシーンをスクリーンショットしたり、NHK 解説委員の解説を繰り返し視聴したりして、自分の考えを練り上げる。 <p>4. 自分の考えを発表し、クラス全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考え(判決と理由)を発表する。 ・クラス全体で討論する。 	   <p>母ガニがこの裁判を見たら、少しは納得して刑は軽くなるかなと思ったから、あの猿の境遇も考えてダメだけど仕方がないことだと思った。それに、もうしっかり反省しているし、死刑は重すぎると思ったから。</p> <p>母親だけなら無期懲役かもしれないけど一緒にいただけの幼い子ガニまで殺すのは死刑で償わせるべきだと思う。カニ家からしたら家庭事情など「知ったことかー!」となると思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SKYMENU Cloud で資料を共有 ・ポジショニング機能で意見を可視化 「死刑にしない」に変わった児童 「死刑にする」に変わった児童

ま と め	<p>5. 話し合いを踏まえ、自分の考えをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちとの討論を踏まえたうえで、自分の最終的な判決を出す。 ・話し合い活動をふり返る。 		
-------------	---	--	--

《実践を振り返って》

「人」台端末が配備されたことで、自宅での個別視聴が容易にできるようになりました。あらかじめ学習の目的を明確に示すことにより、事前に個別視聴する目的意識を高めることができます。『おはなしのくに』を事前に視聴しておくことで、本時で扱う「さるかに合戦」がどのような話だったのか、足並みを揃えた上で学習に臨めました。また、学習支援ツール(今回は SKYMENU Cloud)のポジショニング機能を活用し、他の児童の意見を参照したり、残った軌跡から以前の思考を振り返ったりすることは、自らの考えを広げ、深めることに役立ちます。特に、自分の考えを形成したり表明したりするのが苦手な児童にとっては、動機づけや助けにもなります。

番組の視聴は、児童にとって受け身になることもあります。端末を活用することで、自分の思考のペースに合わせて、番組を見返したり他の児童の意見を参照したりして、考えをまとめることができました。番組と端末の相性は抜群で、中立の立場で考えることの難しさに直面しながらも、友だちの考えとの違いに触れ、深く考え、議論する力を育むことができました。